PLACER

Vol.17
The 38th
Business Report

第38期 株主通信

2010年4月1日から2011年3月31日まで

株主の皆さまへ …… ❶

Fade in ダイコク電機最前線 …… ❺
●ダイコク電機展示会＆セミナー
●自然の力を活用した環境配慮・省エネの「新本社ビル」

New Product 新製品情報 …… ❻

営業のご報告 …… ❼

セグメント別の状況 …… ❾

連結財務諸表 …… ⓫

単独財務諸表 …… ⓬

会社概要 …… ⓭

株式情報 …… ⓮

DAIKOKU DENKI

証券コード　6430

新たなビジネスを生み出すイノベーターとして、世の中に求められる価値を提供してまいります。

株主の皆さまにおかれましては、平素より当社事業へのご理解と格別のご支援を賜り、誠にありがとうございます。

2011年3月11日に発生した東日本大震災により被災された皆さまに、心よりお見舞い申しあげます。

当社拠点におきましては、幸いにして全従業員の無事を確認いたしました。

以下、当期(2011年3月期)の取り組み及び成果をお伝えするとともに、震災による影響と今後の展開について、代表取締役社長 栢森雅勝よりご説明させていただきます。

代表取締役社長
栢森 雅勝

震災の発生による事業への影響について

●半導体部品の供給停止で、遊技機が販売延期

今回の震災により甚大な被災状況となった地域に、当社は仙台営業所と盛岡営業所がありますが、いずれも従業員の無事が確認でき、物的被害も軽微にとどまりました。

その後の波及としましては、半導体部品の供給がストップしたことによる制御システム事業への影響が大きく、3月中に予定していたパチンコ遊技機2機種の販売が延期となったため、約30億円の売上減少に至りました。情報システム事業においても、パチンコホール改装の見直しや延期などにより3億円程度のマイナスが生じました。

一方、当社の会員制情報提供サービス「DK-SIS」を通じて見た全国パチンコホールの営業状況では、震災直後からの客足減少がその後2週間程度で戻ってきており、5月の連休には前年並みに回復しております。

今後予想される当社への影響としましては、夏以降に半導体部品供給が回復するまで前述の制御システム事業の状況が続くものと見ております。パチンコファンの動きに悪化は見られないものの、ホールの新設・改装や遊技機メーカーによる新台投入などが停滞し、2011年度前半はパチンコ市場全体として低調に推移するものと考えております。

当期の事業環境と取り組み成果を振り返って

●1円パチンコの導入浸透により市場が変化

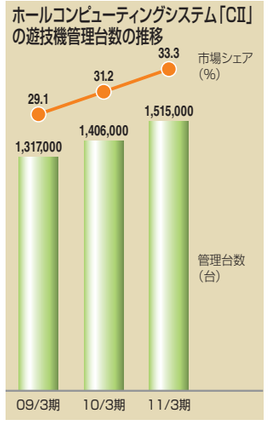
当期のパチンコ業界を遊技機の稼動時間及び粗利の状況は、いずれも前期に引き続き減少を示しております。国内成熟産業としての傾向は否めませんが、粗利の減少については、従来と違ったコスト構造を持つ1円パチンコ等の低貸玉営業の拡大によるものです。現在、パチンコホール全体の7割が1円パチンコを導入し、全パチンコ台数の20%を超える状況となっております。コンテンツ産業として新台を供給し、市場の健全性を担保する従来の4円パチンコに対し、中古台のリユースによってコストを維持する1円パチンコが拡大しつつあり、この市場変化が粗利の減少にあらわれております。

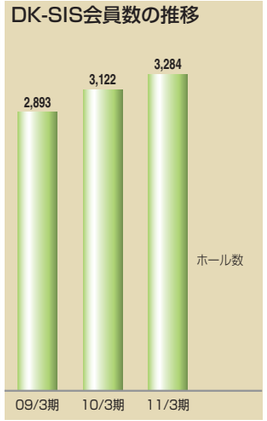
また、パチンコホール数も長期的に減少し続けておりますが、個人経営規模の店舗が淘汰される世代交代的な動きを示すもので、業界の衰退を意味する傾向ではないと考えております。

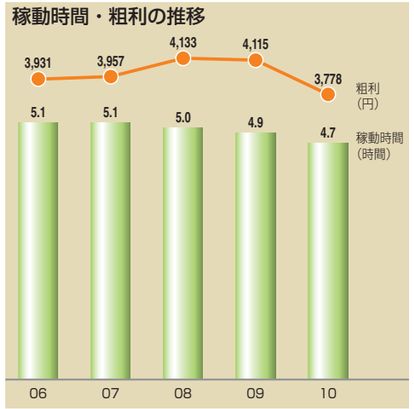
●新サービス「ファン動向分析システム」を投入

当社は、引き続き情報提供・管理サービスの提供を拡大させており、「DK-SIS」会員数は前期比162会員増の3,284会員、ホールコンピューティングシステム「CⅡ」の遊技機管理台数は前期比109,000台増の1,515,000台となりました。

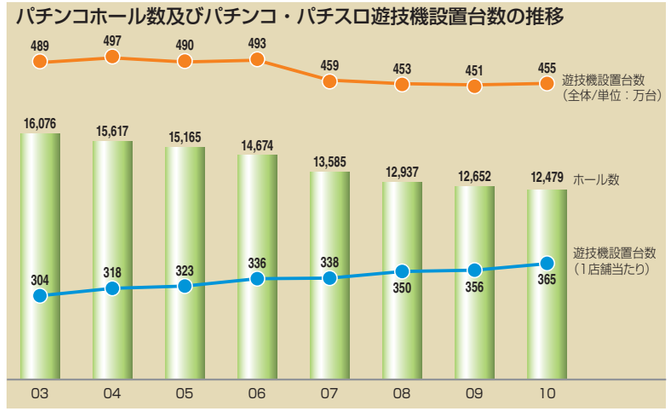
「DK-SIS」会員数については、パチンコホール数を考えると、さらなる急成長が見込める状況にはありませんが、今後もさらなる利便性の向上によって顧客満足度を維持し、会員の獲得に努めてまいります。







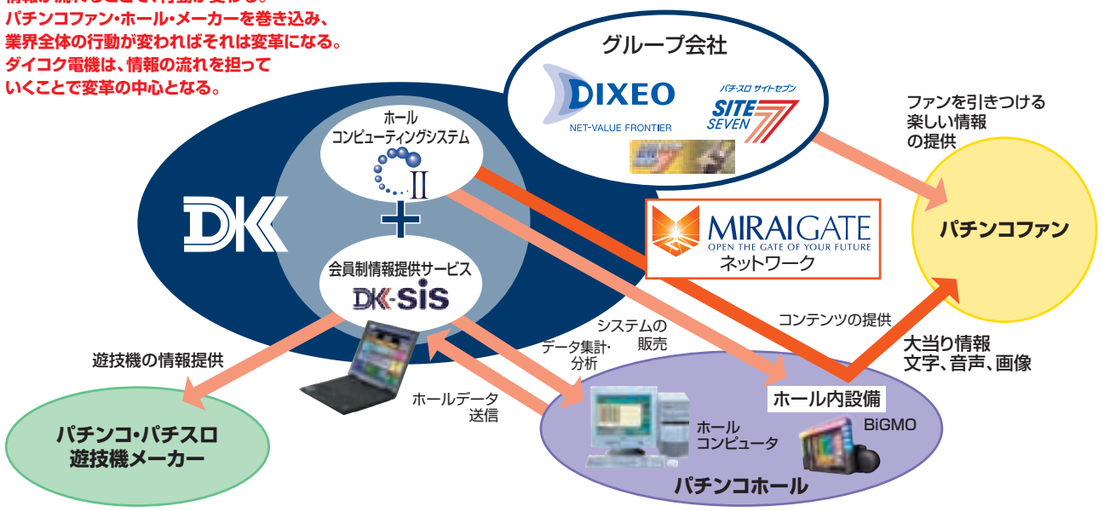
調査資料の出処：「DK-SIS白書2010」



調査資料の出処：「平成22年中における風俗関係事犯等について」

●価値情報ネットワークシステムの実現

ファン、ホール、遊技機メーカーに情報が流れる仕組みを実現する。



また当期は、ホールの新規出店・大規模改装が低調となり、結果として情報システム事業においても減収減益を余儀なくされましたが、そうした中でも、「MIRAIGATE(ミライゲート)ネットワーク」を中心としたホール支援システムへの高い評価が、「CⅡ」の遊技機管理台数の拡大につながっております。

なお、前期から当社は、新たな情報サービスとして「ファン動向分析システム」を市場投入しました。これは、パチンコホールの駐車場に設置したカメラから車番を認証し、新規来店者や店内滞留時間などを測定するものです。ホールコンピュータのデータだけでは把握できなかったファンの情報を、「Nシステム(車両ナンバー認識システム)」の利用によって分析する、業界初の情報サービスです。

パチンコホールの営業戦略に大きな優位性をもたらす新カテゴリー商材であり、長期的な成長を期待しております。

今後の取り組みと新たなビジネス展開

●次期の展開において踏まえる2つのポイント

次期(2012年3月期)については、震災に端を発するさまざまな混乱により、国内経済における不確実性が高まっております。また、先に述べましたとおり、半導体部品の供給回復が当社の制御システム事業に大きく影響する状況となっております。

しかし、リーマンショック時のような経済全般の落ち込みには至っておらず、結局のところ当社の事業展開として踏まえるべきポイントは、製造の混乱が続く中で、どのようにビジネスを展開していくか、そして混乱が解消された後にどのような挽回を目指していくか、という2点に尽きると思います。

これらを踏まえ、これからの成長に向けた取り組みを着実に進めてまいります。次期業績については、赤字決算を余儀なくされる見込みですが、売上の拡大を維持してまいります。

●環境・省エネに対応する新たな事業の方向性

今回の震災を機に、節電・省エネに対する社会全体の意識がかつてない高まりを見せています。こうした流れをビジネスの中に取り込んでいくことによって、勢いのある展開が可能となると考えております。

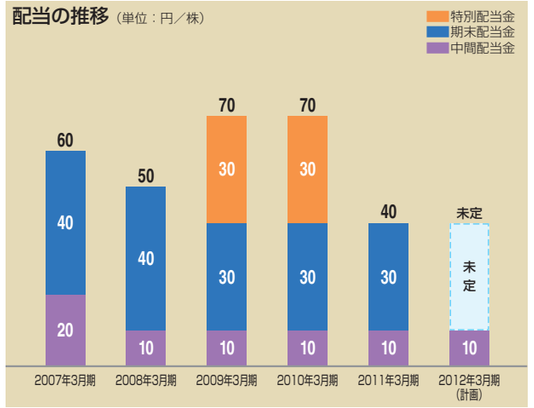
今春に開催した展示会では、パチンコホール向け新製品として、電力使用量の監視システムを発表いたしました。ホール内の電力使用状況を見える化し、効率的な節電・省エネ対応を促進するもので、次期の新製品として投入してまいります。

なお当社は、このたび名古屋市中村区に新本社ビルを完成し、今年5月に移転いたしました。この建物は環境配慮・省エネのエコビルとして設計・建設されております。太陽の動きに合わせた自動制御の電動ブラインドや、人感センサ・照度センサの導入による人の出入りや明るさに応じた照明制御、室内で必要な外気量のみを給気するなど、さまざまなエコ機能を備えたこのビルは、今後の当社事業が目指していくひとつのスタイルを象徴するものとなっております。

●上場企業の責務として考える配当維持

当期の期末配当金につきましては、業績状況等を勘案し、1株当たり30円とさせていただきました。これにより、中間配当金を含めた当期の年間配当金は、同40円となりました。当社は、株主の皆さまからのご期待とご支援にお応えする利益還元について、安定的かつ継続的な配当の維持・充実を基本方針としております。上場企業として果たすべき責務のひとつとして、また、資本政策におけるコストとしての認識のもと、安定配当の維持に努めていく所存でおります。

当社は、今後も新たなビジネスを生み出していくイノベーターとして、世の中に求められる価値を提供し続けてまいります。株主の皆さまにおかれましては、引き続き当社事業へのご理解とともに、長期的なご支援を賜りますようお願い申しあげます。



(注)業績に応じて特別配当を実施しております。

Fade in●ダイコク電機最前線

ダイコク電機展示会＆セミナー

●「MIRAIGATE2011」～つながる安心、ひろがる未来～

２０１１年2月に名古屋、福岡、東京、大阪の全国4会場、延べ6日間にわたり、展示会&セミナー「MIRAIGATE2011」を開催し、多くのお客様にご来場いただきました。

今回の展示会は、「つながる安心」=CⅡネットワークによる製品活用、「ひろがる未来」=近未来的参考出品を展示することで、製品単体への興味だけでなくダイコク電機が目指す方向性を感じ取っていただくことをコンセプトに開催しました。

今後も、製品を並べるだけの展示会に終わること無く、何か一つでもホールの営業に活かすことのできるアイデアや情報が提供できるよう、展示会を開催してまいります。どうぞご期待下さい。

●DK-SISセミナー

第1部「2011年の遊技機マーケット展望」

第2部「DK-SISデータを解体！～業績の本質に迫る～」

会　場	来場者数(名)
名古屋	358
福岡	324
東京（２日間）	799
大阪（２日間）	512
合計（６日間）	1,993

今年もDK-SISセミナーを展示会と合同で開催しました。今回は、著名な業界コラムニストであるPOKKA吉田氏をお招きし、実に15年ぶりとなる外部講師とのコラボ型セミナーとなりました。

第1部では、POKKA吉田氏より、近年のパチンコ･パチスロの遊技規則の変遷やマーケット変化を振りかえり、マーケットの停滞要因について解説しました。また、現状の厳しい環境下の中で、どうパチンコの業績低迷を食い止めるかについても、ファン目線でのデータ活用･釘活用の観点で言及しました。

第2部では、当社の講師陣により、"4円パチンコの再生"をテーマに時間粗利の見直しや、各遊技機タイプ毎の活用法をDK-SISデータをバックボーンに解説しました。中でも、ライトタイプの活用に関しては当社ならではの切り口であったことから、セミナー後のアンケートでも大きな反響をいただきました。

今後も当社の強みであるDK-SISデータを基軸としたセミナーの開催や、業界内外への幅広い情報発信に努めてまいります。

自然の力を活用した環境配慮・省エネの「新本社ビル」

当社は平成23年5月10日に本社を移転しました。

これを機に、さらに皆さまのご期待にそえるよう社員一同業務に精励いたしますので、今後ともご支援ご指導よろしくお願いします。

住所：
名古屋市中村区那古野一丁目43番5号

●ダイコク電機本社ビルの特長

本社ビルには、環境に配慮したさまざまな工夫を凝らしました。外壁は断熱効果の高い素材を利用し、日射遮蔽フィンによって余計な直射日光をカットします。室内は太陽の動きによって自動的に変化する電動ブラインドを採用し、さらに明るさに応じて照明出力を抑制する昼光利用照明制御と組み合わせ、省エネしながらも明るい室内を実現しました。

また、空調では屋外機のアイドリングストップ機能を備えた「パッケージ型空調機最適制御(i-ems)」を採用しました。

New Product●新製品情報

業界初「W表示モード」を搭載した「IL-AW」

今までの呼出ランプは豊富なデータを表示すると、見やすさ重視のファンには見辛い傾向に、逆に見やすくデータを表示すると、データ重視のファンには物足りない傾向がありました。

どちらかを優先すればどちらかが満たされない･･･そんなジレンマにも似た状況をボタン一つで変え、異なるニーズを叶えてしまう夢の機能！それがIL-AWに搭載した業界初「W表示モード」です。IL-AWには他にも多色表示による「表現力UP」や、ドデカ呼出ボタンで「安心力UP」等の進化が満載です。

一人でも多くのファンを獲得しなければならない現在にどちらかを優先したことでファンを失うということは、例え少数であっても避けなければなりません。そんな時代だからこそ、ダイコク電機は「W表示モード」に絶対の自信持ち、IL-AWをおすすめします。

3つのNEWで大幅進化した新「BiGMO」

今年で発売してから3年目を迎えるBiGMOは更なる飛躍を遂げるために「ファンの声」「ホールの声」をもとに、新機能、新イルミネーション、新デザインを搭載し、リニューアル進化を遂げました。

- 新機能
  出玉アピールの機能はもちろんのこと、まだこれからの台にも座ってもらえる、最近の傾向を表示する「レーダーチャート」を搭載。
- 新イルミネーション
  より見やすく、より華やかに島内演出が可能。
- 新デザイン
  レイアウトは変えずに、基本デザインだけを変更。BiGMOの既存設置店舗でもバージョンアップで手軽にリニューアル感を演出。

今まで、BiGMOはその時、その時に応じた最適機能を搭載してきました。そして2011年市場は新たな時代に突入します！

3つのNEWを搭載した新BiGMOに是非ご期待ください。

台間TV付情報公開端末「プレジャービジョンⅢ」

遊技体験の品質を向上させるべく、"趣味であるパチンコ･パチスロをもっと満喫できる環境に"というコンセプトでプレジャービジョン(PV)をフルモデルチェンジしました。

代表的な新しい特長を3つ紹介します。

- 迫力の大画面でキレイ！
  8.5インチタッチ液晶は従来比で面積2倍、画素数5倍。スマートフォンのようにスライド操作も可能。
- 見たい動画をすぐ再生
  ワンタッチで動画ストリーミング再生。わかりやすく機種のツボを伝達。
- たのしさ倍増「ぷればち」
  携帯FeliCaリーダーを標準搭載し、おサイフケータイで簡単参加。「ぷればち」とは勝ち負けとは関係なく遊技を楽しむコンテンツ。

プレジャービジョンⅢを店舗で是非、遊技を楽しむプロセスとして使ってみてください。きっと新しい、楽しい発見があるはずです。

本部パネル

「本部パネル」は、ホール経営者をターゲットにした製品です。ホール経営者が気になる全店舗の状況、エリア合計等が手に取るように把握できます。

画面上でリアルタイムに変化する全店舗の状況をただ見るだけでなく、先週の同じ時間帯と比較して業績が落ち込んでいる時はアラートとして色を変えるなど、ビジュアル的に「気付く」こともできます。

リアルタイムに現状を把握し、早く手を打つことで競合ホールに打ち勝つことができるのです。

営業のご報告

当連結会計年度の取り組みと成果●●●○

当連結会計年度におけるわが国経済は、企業収益は改善しつつありましたが、3月11日に発生した東日本大震災により、経済活動には大きな影響がありました。

当期の当社グループが携わるパチンコ業界におきましては、個人消費の冷え込みの影響を受け、顧客であるパチンコホールの収益は依然厳しい状況が続いております。このようななか、1円パチンコ等の低貸玉営業は全国的に浸透し、差別化をはかる動きが見られました。また、中古遊技機流通制度の変更や11月に開催されたＡＰＥＣに伴う遊技機入替自粛などによりパチンコ遊技機の販売台数は低調に推移いたしました。一方、パチスロ遊技機の業績は好調で、パチンコからパチスロへシフトする動きが出始めました。警察庁生活安全局「平成22年度中における風俗関係事犯等について」によると、パチンコホール数は平成21年に比べて173店舗減少し、12,479店舗となりました。また、遊技機設置台数はパチンコ遊技機が4,851台増加、パチスロ遊技機も43,316台増加し、合計4,554,430台となりました。その結果１店舗当たりの遊技機設置台数は8.8台増加し、365台となりました。

このような市場環境のなか、情報システム事業におきましては、パチスロ活性化に対して「BiGMO」や低貸玉営業における差別化の動きに対して「楽pass」などの店舗における活用提案を推進いたしました。制御システム事業におきましては、物作りの改革を目指して開発業務の品質向上と効率を追求し、遊技機のソフト、ハードの企画提案に努めました。しかしながら、東日本大震災により、制御システム事業の販売予定機種が延期となり業績に影響いたしました。

この結果、当連結会計年度の業績は、連結売上高344億83百万円（前期比33.5％減）、連結営業利益２億26百万円（同95.1％減）、連結経常利益３億56百万円（同92.7％減）となりました。連結当期純損失３億42百万円（前期　当期純利益23億47百万円）となりました。

次期の見通し●●●○

わが国経済は、東日本大震災の影響により、厳しい状況になると予想されます。当社DK-SISデータによりますと、震災後一旦落ち込みました遊技客数は４月末現在において回復いたしました。しかし、顧客であるパチンコホールにおいては、建築資材不足もあり新規出店及び大型投資は抑えられ、遊技機メーカーにおいては、半導体流通が不透明なため新機種の販売が遅延していくものと思われます。

このような市場環境のなか、情報システム事業におきましては、売上高210億円（前期比10.6％減）を見込んでおり、MIRAIGATEネットワークサービスの価値向上を更に進め、前期を上回るように努めてまいります。制御システム事業におきましては、売上高150億円（同57.9％増）を見込んでおり、企画提案力の向上や開発効率の追求により業績向上に努めてまいります。アミューズメントコンテンツ事業におきましては、売上高20億円（同28.1％増）を見込んでおり、開発力向上により受託開発の増加を目指します。

この結果、連結売上高380億円（同10.2％増）、連結営業損失15億円（前期　営業利益２億26百万円）、連結経常損失15億円（同経常利益３億56百万円）、連結当期純損失15億円（同当期純損失３億42百万円）を見込んでおります。

業績の見通しに関する注意事項

この資料に記載した見通しに関しましては、現時点で得られた情報に基づき判断した予測であり、潜在的なリスクや不確定要素が含まれております。また、この度の東日本大震災が、当社の経営成績にどのような影響を与えるかを合理的に見積もることは非常に困難なため、先行きが不透明のなか、次期の連結経営成績におきましては、記載した見通しが大きく異なる可能性があります。今後の業績につきましては、継続的に情報収集と分析を行い、業績予想を修正する必要がある場合には、速やかに公表をいたします。

対処すべき課題●●●○

＜情報システム事業＞

MIRAIGATEシステムとネットワークサービスの強化をはかり、ＣⅡシェアの拡大とシェアを活かしたビジネスモデルの確立を目指します。

＜制御システム事業＞

顧客貢献に向け事業基盤の強化を目指します。

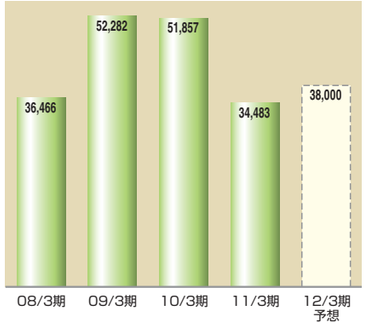
1. ファンに評価される遊技機企画を行います。
2. リユースを念頭に置いたパチンコ台機種開発に取り組みます。
3. グループ企業リソースを積極的に活用し開発体制を強化します。

＜アミューズメントコンテンツ事業＞

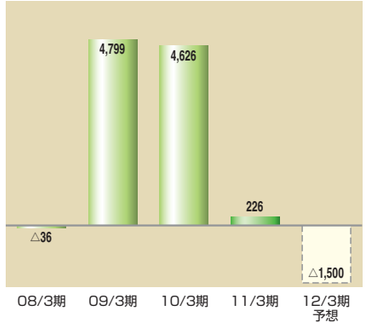
企画力と開発品質を向上させることで、大手ゲーム会社との信頼を強化し、事業を拡大していくことを目指します。

主要財務データ（単位：百万円） Key Financial Data

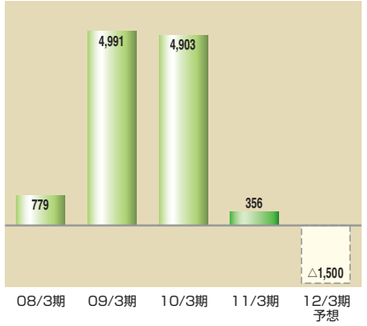
売上高



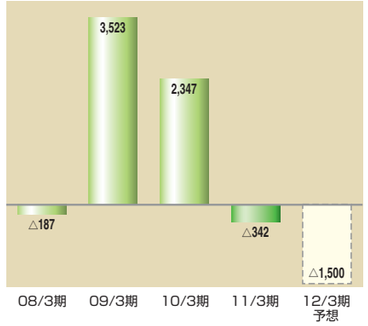
営業利益又は損失（△）



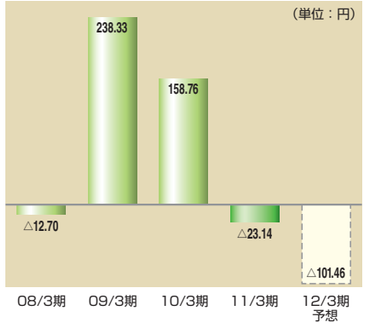
経常利益又は損失（△）



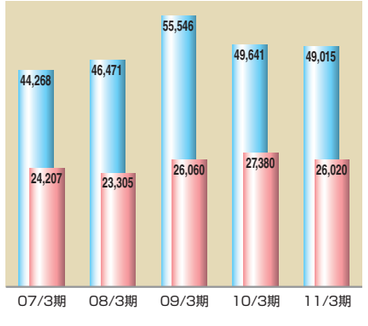
当期純利益又は純損失（△）



1株当たり当期純利益又は純損失（△）



■総資産／■純資産



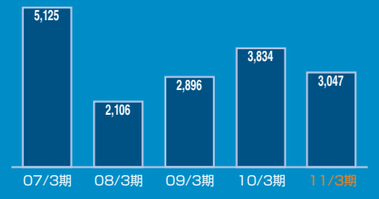
情報システム事業

当連結会計年度は、MIRAIGATEネットワークを活用したホール経営を支援する窓口となる「CⅡデスク」や迅速かつ的確なメンテナンスに対応するための「メンテナンスデスク」の価値を高め、ホールコンピューティングシステム「CⅡ」の導入を提案いたしました。また、パチスロ活性化に対して、遊技機の楽しみを広げるコンテンツ表示や音声演出を加えた情報公開機器「BiGMO」や低貸玉営業における差別化の動きに対して、ファンの利便性向上を追求した台毎計数システム「楽pass」などの店舗における活用提案を推進し、MIRAIGATEネットワークの普及を進めましたが、新規出店等の大型の設備投資は引き続き低調でした。

この結果、当事業の売上高は234億92百万円(前期比8.2%減)、営業利益30億47百万円(同20.5%減)となりました。

■ 情報システム事業売上高 (単位：百万円)

■ 情報システム事業営業利益 (単位：百万円)



ファン向け台毎端末『楽passⅡ』

ファン向け台毎端末『楽passⅡ』は、わかりやすさと、ファンが安心して遊技できることに徹底的にこだわりました。

1. リアルタイムに正確な持ち玉数を表示することで、ファンは臨場感を楽しむことができます。
2. 操作も非常にシンプル。誰でも簡単に遊技を楽しむことができます。
3. 持ち込み玉等の不正もリアルタイムに検知します。

ホールサポートサービス

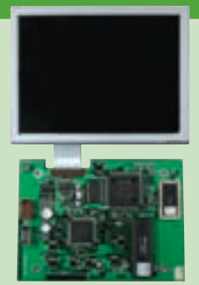
MIRAIGATEネットワークを駆使し、「常に現場第一主義」をキーワードにシステム・サービス・スタッフの力を結集した当社ならではの強力な体制でホールをサポートするのがホールサポートサービス。

ホールサポートサービスはトラブルに対応する「メンテナンスデスク」と、CⅡの活用を支援する「CⅡデスク」からなり、多様化するホール運営をサポートします。

制御システム事業

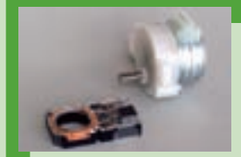
当連結会計年度は、遊技機のソフト、ハードの企画提案に努めましたが、APEC開催に伴う遊技機入替の自粛、パチンコ遊技機の内規改正対応による開発期間延長、東日本大震災による販売延期等により、機種数および販売台数が大幅に減少いたしました。

この結果、当事業の売上高は94億97百万円(前期比62.1%減)、営業損失10億28百万円(前期　営業利益29億74百万円)となりました。



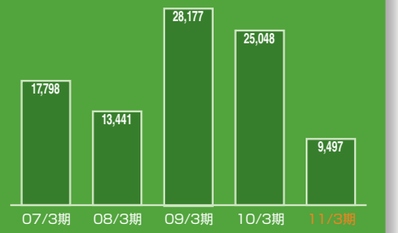
表示ユニット
パチンコ遊技機のゲーム内容を表現する部分で、ハードウエアとそれに搭載されるプログラムから構成されます。

制御ユニット
基本動作をつかさどるハードウエアとそれに搭載されるプログラムから構成され、パチンコ遊技機の心臓部といえます。

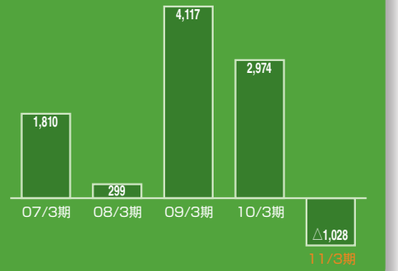


商品(部品)
パチンコ遊技機に使用される液晶パネル、スイッチ、モーター等のオートメーションパーツの仕入販売をしております。

■ 制御システム事業売上高 (単位：百万円)



■ 制御システム事業営業利益 (単位：百万円)



アミューズメントコンテンツ事業

当連結会計年度は、コンシューマゲームにおいて、開発力が評価され開発受注が増えました。また、元気オリジナルゲームとして「高橋書店監修 最頻出！SPIパーフェクト問題集DS 2012年度版」を発売し販売が堅調に推移いたしました。携帯コンテンツは、mixiやYahoo!モバゲーに続きGREEへも提供を始めました。

この結果、当事業の売上高は15億61百万円(前期比25.2%増)、営業損失59百万円(前期　営業損失2億22百万円)となりました。

連結財務諸表

Consolidated Financial Statements

（単位：百万円、百万円未満は切捨て）

連結貸借対照表（要旨）

科　目	当連結会計年度 2011年3月31日現在	前連結会計年度 2010年3月31日現在
資産の部		
流動資産	31,549	34,582
固定資産	17,466	15,058
有形固定資産	9,821	8,600
無形固定資産	1,884	1,487
投資その他の資産	5,760	4,970
資産合計	49,015	49,641
負債の部		
流動負債	20,723	20,915
固定負債	2,271	1,345
負債合計	22,995	22,260
純資産の部		
株主資本	25,949	27,326
資本金	674	674
資本剰余金	680	680
利益剰余金	24,596	25,973
自己株式	△0	△0
その他の包括利益累計額	4	4
少数株主持分	66	49
純資産合計	26,020	27,380
負債純資産合計	49,015	49,641

連結損益計算書（要旨）

科　目	当連結会計年度 2010年4月 1日から 2011年3月31日まで	前連結会計年度 2009年4月 1日から 2010年3月31日まで
売上高	34,483	51,857
売上原価	23,246	35,705
売上総利益	11,236	16,152
延払販売未実現利益控除	5	—
延払販売未実現利益戻入	15	15
差引売上総利益	11,246	16,167
販売費及び一般管理費	11,020	11,541
営業利益	226	4,626
営業外収益	243	402
営業外費用	114	124
経常利益	356	4,903
特別利益	18	16
特別損失	162	147
税金等調整前当期純利益	212	4,772
法人税、住民税及び事業税	1,309	2,431
法人税等調整額	△772	△12
少数株主損益調整前当期純損失(△)	△324	—
少数株主利益	17	7
当期純利益又は当期純損失(△)	△342	2,347

連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

科　目	当連結会計年度 2010年4月 1日から 2011年3月31日まで	前連結会計年度 2009年4月 1日から 2010年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	△2,791	6,079
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,016	△3,416
財務活動によるキャッシュ・フロー	465	△1,895
現金及び現金同等物に係る換算差額	△3	0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△3,346	768
現金及び現金同等物の期首残高	16,426	15,658
現金及び現金同等物の期末残高	13,080	16,426

連結株主資本等変動計算書（要旨）

当連結会計年度 2010年4月1日から2011年3月31日まで	株主資本					その他の包括利益累計額	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金		
2010年3月31日残高	674	680	25,973	△0	27,326	4	49	27,380
連結会計年度中の変動額								
剰余金の配当	—	—	△1,034	—	△1,034	—	—	△1,034
当期純損失(△)	—	—	△342	—	△342	—	—	△342
自己株式の取得	—	—	—	△0	△0	—	—	△0
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	△0	17	16
連結会計年度中の変動額合計	—	—	△1,376	△0	△1,377	△0	17	△1,360
2011年3月31日残高	674	680	24,596	△0	25,949	4	66	26,020

単独財務諸表

Non-Consolidated Financial Statements

（単位：百万円、百万円未満は切捨て）

貸借対照表（要旨）

科　目	当事業年度 2011年3月31日現在	前事業年度 2010年3月31日現在
資産の部		
流動資産	29,184	32,655
固定資産	18,865	15,646
有形固定資産	9,298	8,098
無形固定資産	1,753	1,452
投資その他の資産	7,813	6,094
資産合計	48,050	48,301
負債の部		
流動負債	19,871	20,168
固定負債	2,117	1,216
負債合計	21,989	21,385
純資産の部		
株主資本	26,056	26,911
資本金	674	674
資本剰余金	680	680
利益剰余金	24,703	25,557
自己株式	△0	△0
評価・換算差額等	4	4
純資産合計	26,060	26,916
負債純資産合計	48,050	48,301

損益計算書（要旨）

科　目	当事業年度 2010年4月 1日から 2011年3月31日まで	前事業年度 2009年4月 1日から 2010年3月31日まで
売上高	31,136	49,145
売上原価	21,193	34,022
売上総利益	9,943	15,122
延払販売未実現利益控除	5	—
延払販売未実現利益戻入	15	15
差引売上総利益	9,953	15,137
販売費及び一般管理費	8,856	10,044
営業利益	1,097	5,093
営業外収益	488	566
営業外費用	93	104
経常利益	1,492	5,556
特別利益	18	25
特別損失	781	2,329
税引前当期純利益	729	3,253
法人税、住民税及び事業税	1,106	2,321
法人税等調整額	△557	△1
当期純利益	180	933

株主資本等変動計算書（要旨）

当事業年度 2010年4月1日から2011年3月31日まで	株主資本								評価・換算差額等	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金				自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	
		資本準備金	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計				
				別途積立金	繰越利益剰余金					
2010年3月31日残高	674	680	30	20,000	5,527	25,557	△0	26,911	4	26,916
事業年度中の変動額										
剰余金の配当	—	—	—	—	△1,034	△1,034	—	△1,034	—	△1,034
当期純利益	—	—	—	—	180	180	—	180	—	180
自己株式の取得	—	—	—	—	—	—	△0	△0	—	△0
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	—	—	—	△0	△0
事業年度中の変動額合計	—	—	—	—	△854	△854	—	△854	△0	△855
2011年3月31日残高	674	680	30	20,000	4,673	24,703	△0	26,056	4	26,060

Corporate Profile

会社概要（2011年6月29日現在）

商　　号　ダイコク電機株式会社
DAIKOKU DENKI CO., LTD.
創　　業　1964年12月
設　　立　1973年 7月
資 本 金　6億7千4百万円
（発行済株式総数14,783,900株）
本　　社　名古屋市中村区那古野一丁目43番5号
従業員数　（単独）435名　（連結）679名
（2011年3月31日現在）
事業内容　パチンコホール向けコンピュータシステムの開発・製造・販売
パチンコ遊技機用ユニット・パチスロ遊技機の開発・製造・販売

役　員

代表取締役社長	栢森雅勝	取締役	根本　弘
代表取締役副社長	栢森秀行	取締役	吉川幸治
代表取締役専務	栢森　健	取締役	國保徳丸
常務取締役	岩根節雄	取締役	足立芳寛
取締役	橋本忠巳	常勤監査役	伊東幹夫
取締役	丹羽時重	監査役	村橋泰志
取締役	室町雅紀	監査役	田島和憲

（注）1. 取締役 國保徳丸氏、足立芳寛氏は社外取締役であります。
2. 監査役 村橋泰志氏、田島和憲氏は社外監査役であります。

事業所一覧

本社　〒450-8640　名古屋市中村区那古野一丁目43番5号　TEL(052)581-7111(代表)
坂下事業所　〒480-0395　春日井市坂下町1丁目875　TEL(0568)88-7111
高蔵寺事業所　〒487-0014　春日井市気噴町一丁目2番地　TEL(0568)51-7111
春日井事業所　〒480-0304　春日井市神屋町1番26　TEL(0568)88-7771
TOKYO デザインスタジオ　〒164-0012　東京都中野区本町一丁目32番2号　ハーモニータワー

拠点一覧

東日本支店　〒110-0015　東京都台東区東上野四丁目8番1号　TIX TOWER UENO
・茨城営業所　〒305-0032　つくば市竹園二丁目2番地4　第2・ISSEIビル
・北関東営業所　〒330-6022　さいたま市中央区新都心11番地2　明治安田生命さいたま新都心L.A.タワー
・新潟営業所　〒950-0925　新潟市中央区弁天橋通1丁目2番39号　VMビルディング
・札幌営業所　〒001-0011　札幌市北区北十一条西四丁目1番地44　ベルエアプラザ
・盛岡営業所　〒020-0045　盛岡市盛岡駅西通二丁目9番1号　マリオス
・仙台営業所　〒980-0014　仙台市青葉区本町二丁目2番3号　鹿島広業ビル
中部支店　〒480-0395　春日井市坂下町1丁目875
・金沢営業所　〒920-0027　金沢市駅西新町3丁目9番26号
・松本営業所　〒390-0852　松本市大字島立399番地1　滴水ビル
西日本支店　〒532-0003　大阪市淀川区宮原四丁目1番14号　住友生命新大阪北ビル
・岡山営業所　〒700-0927　岡山市北区西古松一丁目1番26号　オム第Ⅱビル
・高松営業所　〒761-8071　高松市伏石町2130番地1　丸忠Ⅲビル
・広島営業所　〒730-0004　広島市中区東白島町14番15号　NTTクレド白島ビル
九州支店　〒812-0016　福岡市博多区博多駅南二丁目1番9号　ヤマエ博多駅南ビル
・宮崎営業所　〒880-0801　宮崎市老松一丁目3番3号　松屋ビル

関係会社

連結子会社●DIXEO株式会社、元気株式会社、元気モバイル株式会社、DAXEL株式会社、DO株式会社
関 連 会 社●株式会社ラピス

Stock Information

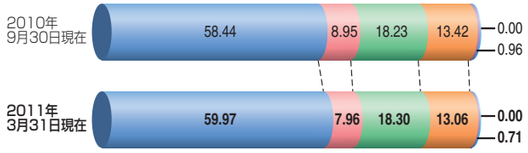
株式情報（2011年3月31日現在）

株式状況

発行可能株式総数……66,747,000株
発行済株式総数……14,783,900株
株主数……4,232名

所有者別株式分布状況

	2011年3月31日現在		2010年9月30日現在	
●個人・その他	8,866,240株	4,031名	8,639,784株	3,750名
●金融機関	1,175,700株	26名	1,322,100株	26名
●その他国内法人	2,705,900株	65名	2,695,300株	62名
●外国人	1,930,710株	81名	1,984,171株	92名
●証券会社	105,035株	28名	142,276株	29名
●自己名義株式	315株	1名	269株	1名
合計	14,783,900株	4,232名	14,783,900株	3,960名



（単位：%）

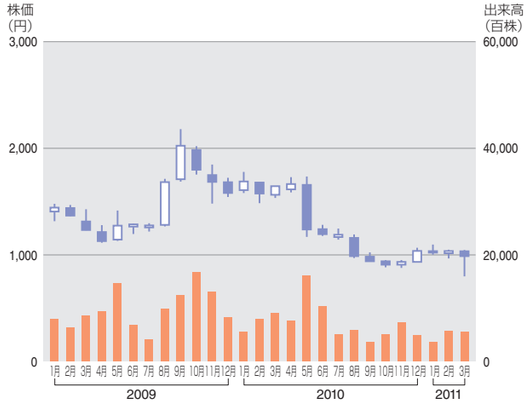
持株数別株式分布状況

	2011年3月31日現在		2010年9月30日現在	
1単元未満	1,113株	136名	897株	116名
1単元以上5単元未満	439,356株	2,585名	409,313株	2,428名
5単元以上10単元未満	299,180株	506名	285,410株	482名
10単元以上50単元未満	1,412,247株	825名	1,252,275株	741名
50単元以上100単元未満	441,832株	66名	485,883株	74名
100単元以上500単元未満	1,735,393株	87名	1,809,000株	90名
500単元以上1,000単元未満	491,800株	7名	566,703株	9名
1,000単元以上5,000単元未満	3,038,464株	11名	3,049,950株	11名
5,000単元以上	6,924,200株	8名	6,924,200株	8名
自己名義株式	315株	1名	269株	1名
合計	14,783,900株	4,232名	14,783,900株	3,960名

大株主

株主名	持株数(株)	出資比率(%)
栢森　健	1,772,200	11.98
栢森　雅勝	1,585,550	10.72
栢森　寿恵	1,108,950	7.50
公益財団法人栢森情報科学振興財団	750,000	5.07
栢森　秀行	739,100	4.99
栢森　新治	737,150	4.98
栢森　美智子	626,000	4.23
ステート ストリート バンク アンド トラストカンパニー	424,700	2.87
栢森　啓	420,000	2.84
メロン バンク トリーティー クライアンツ オムニバス	347,114	2.34
ダイコク電機従業員持株会	325,000	2.19
栢森　和代	311,000	2.10
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	277,000	1.87
ノーザン トラスト カンパニー エイブイエフシー リ フィデリティ ファンズ	168,700	1.14
株式会社　みずほ銀行	150,000	1.01
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	132,100	0.89
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	124,000	0.83
ステート ストリート バンク アンド トラストカンパニー 505224	91,200	0.61
メロン バンク エスエー- アズ エージェント フォー イッツ クライアント メロン オムニバス ユーエス ペンション	88,300	0.59
ノーザントラストカンパニー(エイブイエフシー)アカウントユーエスエル	73,900	0.49

株価及び出来高の推移



株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日
定時株主総会	6月下旬
基準日	定時株主総会　3月31日 期末配当　3月31日 中間配当　9月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします。
一単元の株式数	100株
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒460-8685 名古屋市中区栄三丁目15番33号 中央三井信託銀行株式会社 名古屋支店証券代行部
郵便物送付先 電話照会先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社　証券代行部 TEL.0120-78-2031（フリーダイヤル） 取次事務は中央三井信託銀行株式会社の本店及び全国各支店ならびに日本証券代行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。
公告方法	電子公告によります。ただし、やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
公告のホームページアドレス	http://www.daikoku.co.jp/

IR情報メール配信サービス

当社は、投資家の皆さまに対して電子メールによるIR情報配信サービスを提供しております。ご登録いただいた方々に当社ホームページ（http://www.daikoku.co.jp）に新しい情報が掲載されたことをお知らせします。
ご希望の株主さまは、当社ホームページにアクセスした後、「IRメール配信ご登録」ボタンから、簡単にご登録（無料）いただけます。

「配当金計算書」について

配当金支払いの際送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付書類としてご使用いただくことができます。
＊確定申告をなされる株主様は、大切に保管ください。

株主さまのご住所・お名前に使用する文字に関してのご案内

株券電子化実施にともない、株主さまのご住所・お名前の文字に、株式会社証券保管振替機構（ほふり）が振替制度で指定していない漢字等が含まれている場合は、その全部又は一部をほふりが指定した文字又はカタカナに変換して、株主名簿にご登録いたしております。このため、株主さまにご送付する通知物の宛先が、ほふりが指定した文字に置換えられる場合がありますのでご了承ください。株主さまのご住所・お名前として登録されている文字については、お取引の証券会社等にお問い合わせください。

株券電子化後の配当金受取方法のお取扱い

株券電子化により、従来の配当金振込口座のご指定方法に加えて、あらかじめ登録した一つの預金口座で株主さまの保有しているすべての銘柄の配当金のお受取りや、証券会社の口座でも配当金のお受取りが可能となります。確実に配当金をお受取りいただくためにも、これらの振込みによる配当金のお受取りをお勧めします。詳しくはお取引証券会社等にお問い合わせください。

DK ダイコク電機株式会社
〒450-8640　名古屋市中村区那古野一丁目43番5号
TEL（052）581-7111（代表）
ホームページ　http://www.daikoku.co.jp